

## 1 学年 生徒による授業評価 各教科の評価分析と手立て：①分析)、②手立て)

### 国語

#### ①分析

1年生は「国語総合」(5単位)で授業を行っています。毎日授業があるので、学習の「空白」がなく学習習慣が身につきます。しかしながら、逆に毎日あることで内容も盛りだくさんとなり、遅れないように付いて行くことが求められます。授業の進め方等教える側の評価は1学期よりも高くなっていますが、生徒自身の学習意欲の評価がやや下がり気味となっています。特に国語が得意でない生徒は授業に対する意欲が低くなりつつあります。

#### ②手立て

授業の復習プリントや自宅学習の方法などを折に触れて生徒へ周知したり、質問を受けたりする時間を設けます。授業の開始時に前回の振り返りをして、「本時の目標」「本時の流れ」をプリント等明示することで、生徒が一週間の学びの流れを意識できるようにして授業を行います。

### 地歴・公民

#### ①分析

1年生は日本史Bを学習しています。項目6の「授業中、生徒同士で話し合う機会や意見を発表する機会がある。」また項目7の「ペア・ワーク、グループ・ワーク、話し合い…の機会がある。」の項目について、1学期よりも、2学期のほうが大幅にプラスの評価となっています。また、項目8の「説明の分かりやすさ」では、少しだけマイナスな評価が見られます。アクティブ・ラーニングに関する取り組みが増えたことで、説明する時間などが少し減っているということが分かります。全般的にはプラスの評価が多いですが、評価4から評価3に変化している生徒もみられるため、今後の課題になっていきます。

#### ②手立て

アクティブ・ラーニングに関する取り組みに関する項目4から7が大幅にプラスの評価となっています。このやり方を続けて評価4や評価3の生徒が増えてくれば、他の項目の評価も関連して引き上げられると考えられます。今後は話し合いや発表、ペア・ワーク、グループ・ワークを取り入れた授業の質をさらに高めていきます。

### 数学

#### ①分析

数学Iでは質問4、5の評価が大幅に改善しました。9月の職員会議で、毎回の授業の目標を提示すること、授業の振り返りをその授業内に行うことを確認したためと考えられます。一方で質問7と質問12で「4」を回答した生徒が減少しています。特に、学習に対する意欲低下が顕著です。

#### ②手立て

授業担当者としては、ペア・ワーク、グループ・ワーク等の機会を減らした認識はなく、むしろ限られた時間の中で可能な限り取り入れていると考えています。引き続き、生徒が主体的に取り組む授業と、効果的な「問い」を模索します。また、家庭学習の習慣付けを図るため、課題を増やします。

### 理科

#### ①分析

〈化学基礎〉1学期と比較して、ほとんどの項目で「ほぼ当てはまる」の回答数が増加しています。これは「かなり当てはまる」と「あまり当てはまらない」と回答していた生徒が、ともに「ほぼ当てはまる」に移動してきたためと思われます。2学期の授業内容は、物質質量、濃度、溶解度などの計算、化学反応式の書き方及び化学反応の量的関係など、物理化学の内容を計算で解いていくものを中心となりました。生徒により理解度の差が生じやすくなったこともありますが、得手不得手を含め、回答者が入れ替わっていることも考えられます。また、定期考査においては意図的に応用問題を出題したため平均点が少し下がりました。

〈生物基礎〉学習目標や学習のねらいの提示については、明らかに評価が高くなっており、担当教員の取組みが、生徒にも伝わっています。ペア・ワーク、グループ・ワークや発表などの機会があるかという質問に対して、4を選んだ数が減少をし、3を選んだ数が増加しています。これは、1学期に比べ、一方向的授業が増えたことを示していますが、1学期に受けた斬新な感覚が、2学期には鈍くなりました。意図的に取り組む姿勢についての数字が少ないことについては、真摯に取り組むべき課題と考えます。関心・意欲や主体的な学びが弱いことは、様々な学びが実を結びにくいと考えるからです。

#### ②手立て

〈化学基礎〉内容が少し難しくなったと感じているかもしれませんが、生徒たちはよくついてきていると思います。定期考査の平均点が下がったことを、学力が落ちた、と思うのではなく、しっかりした実力を身につけるための準備、と考えたとよいです。化学の基礎計算については、演習を繰り返し、計算に慣れていくことが大切です。今後の学習に繋がる内容が多い単元なので、復習をしっかりと行わせます。

〈生物基礎〉一学期に増して、二学期においても、知識を入力する内容に併せて、知識を出力し話し合い等を行う内容を、着実に実施するよう努めていきます。また、関心・意欲や学びに対する主体性を育てることは、授業の根幹に関わることなので、どのように育てることができるのか、どのような経験をさせることが必要なのか研究を行い、力を注いでいきます。

### 保健体育

#### ①分析

〈体育〉1・2学期を比較すると、授業の振り返りやねらいの説明を受けていると感じる値が減少しましたが、授業中に話し合いや、ペアで行う活動は増えたと実感している生徒が多いです。しかし、授業に対し意欲的な取り組みをしているという評価に大きな変化は見られませんでした。

〈保健〉今年度より1・2年共に保健の授業では、調べ学習やグループ・ワークを積極的に導入して行きました。その成果としてグループ・ワークの

取り組みの票が大幅に増加しました。しかし、体育同様、大変意欲的に取り組んだという生徒の数がわずかに減少する結果となりました。

#### ②手立て

〈体育〉話し合いやペア活動は増えたものの、意欲的に取り組んでいる生徒の数に大きな差が見られませんでした。生徒の反応としてゲーム要素を取り入れた活動は積極的に行う印象があるため、生徒の興味関心を高めるようなペア活動を行うことで意欲的に取り組ませます。

〈保健〉グループワークなどの活動は増えているが、大変意欲的に取り組む生徒の数が減少したり、教材が工夫されていると感じている生徒の数が1学期よりわずかに減少している結果から、生徒の学習に対する意欲を高めるような教材や授業展開を熟考していきます。

### 家庭

#### ①分析

2学期は夏休みの課題であったホームプロジェクトの発表を全員が行いました。また、食生活の分野で地域の特産物について学習し、お弁当作りの調理実習も行いました。1学期に比べ、実習やそれに伴うグループ学習が多くなりましたが、生徒はグループ内で協力し積極的に意見交換しながら学習していました。しかし、実習したことや学習内容を実生活に生かすことは十分にはできていないとの自己評価をする生徒が多かったようです。グループでの活動は活発に行われていましたが、個々へのはたらきかけが少し不足していたかもしれません。1学期に授業評価があまり高くなかった「授業のおわりに授業内容の振り返りやまとめをしている」という点は2学期に「振り返りシート」を用いて、分野ごとに振り返る時間をとりました。その点では、各自が理解度を確認する時間になったと感じていました。

#### ②手立て

今後はグループ活動も取り入れながら、生徒個々の主体性を引き出すことができるような授業展開の工夫、生徒へのはたらきかけをしていきます。また、今後も授業後の生徒の振り返りやまとめを丁寧に行い、学習したことを家庭生活で実践することによって、生活力を向上させることができるよう促していきます。

### 芸術

#### ①分析

質問4「授業のはじめに学習目標や学習のねらいを明示している」、質問5「授業のおわりに授業内容の振り返りやまとめをしている」の評価は、1学期よりやや高くなっています。授業者は1学期から継続して取り組んできている内容ですが、生徒が授業の流れを掴んだことから評価が高くなりました。

質問7「ペア・ワーク、グループ・ワーク、話し合い、意見交換、発表、論述等をする機会がある」の評価は、「美術Ⅰ」では授業に慣れて作業中の意見交換が活発になったことから1学期より高くなりました。「書道Ⅰ」では教材によって学習方法が異なった結果、低くなりました。

質問12「私は授業に対して意欲的に取り組んでいる」の評価は、1学期からほとんどの生徒が高く評価しているため、上記分析による変化は確認できません。

#### ②手立て

「ペア・ワーク、グループ・ワーク、話し合い、意見交換、発表、論述等」を取り入れることで、各教材の「身に付けさせたい力」の定着に効果が上がるよう工夫していきます。

### 英語

#### ①分析

1学期の活動を発展させ、「思考力・判断力・表現力」をより高めるために、ペアやグループでのスキット(寸劇)発表やプレゼンテーションを行いました。また、特に英語表現Ⅰでは、設定されたテーマについての作文を書くという活動を複数回行いました。それぞれの活動において小道具や場面設定に創意工夫が見られ、自然な英語を用いて表現することができました。こうしたことから、生徒たちは話し合う機会や発表などをする機会があると感じているようです。さらに、1学期より授業が分かりやすい、きめ細かい指導を受けていると感じている生徒が多くなりました。これは、生徒にとって身近なテーマを設定し、分かりやすいプリントを作成するなど、教材を工夫した成果です。また、同時に、学習目標や学習の狙いを明示することにより、生徒がそれらを理解し、見通しをもって授業に臨んでいるからです。しかし、一方で、授業の進度が速く内容を理解できていないと感じる生徒が増えてきています。これは、授業内容が難しくなっていることと、学習内容の量が増えていることによります。今後はより高度な学習内容を習得していくために、生徒が家庭学習を習慣化できるよう、授業でも働きかけを行います。

#### ②手立て

引き続き「自学力」の定着を目指して音読や例文・単語確認などでペア・ワークを取り入れ、レッスンの最後には、その課のゴールとしてプレゼンテーションや作文などのアウトプットの機会を設け、「思考力・判断力・表現力」を向上させていきます。授業内容の理解度については、振り返りテストや、ペアやグループでの確認作業など、授業中での活動を工夫していきます。同時に、家庭での学習がしやすいような予習・復習のための教材を作成するなどして、授業と家庭学習の両方を充実させるように取り組んでいきます。

## 2学年 生徒による授業評価 各教科の評価分析と手立て：①分析)、②手立て)

### 国語

#### ①分析

2年生の国語は、現代文B(2単位)、古典(3単位)の2科目です。現代文と古典とに分かれたため、1年次に比べてより内容の濃い授業となりました。1学期と2学期を比較して、この両科目で「4」の評価(かなり当てはまる)が増えています。特に「授業のはじめに学習目標を明示している」という評価が伸びています。1時間の授業で何を学ぶかをきちんと示していることが評価されています。

#### ②手立て

3年への進級を目前にして、なんとしても学習習慣を確立したいと思います。具体的には、家庭学習の取組や、朝学習への取組をしっかりとさせます。課題等の提出状況は良好ですので、宿題という形でなくても学習につながるような方策を検討します。授業の開始時に前回の振り返りをして、「本時の目標」「本時の流れ」をプリント等で明示することで、意欲的な学習態度を維持していきます。

### 地歴・公民

#### ①分析

2年生は日本史Bと世界史Bの2科目を学習しています。どちらの科目についても、項目4の「授業のはじめに目標やねらいを明示している。」や「生徒主体の授業の工夫」に関する項目5から7の評価に関して、4や3のプラスの評価が増えています。生徒同士で話し合うような活動が増えていることを生徒自身も実感していることが分かります。一方で、生徒の取り組みの姿勢を表す項目12の「意欲的に取り組んでいる」について評価がマイナスの生徒がやや増えており、授業で分からないところを聞いたり調べたりする生徒が減っています。

#### ②手立て

今後に向けては、授業で分からないところを生徒同士で調べ合う時間を作っていくことや担当教員による机間指導を増やします。また、授業の展開のなかで、生徒が質問しやすいような工夫を行っていきます。

### 数学

#### ①分析

数学Ⅱでは全体的に評価4が減り、評価3もペア・ワークやグループ・ワークに関する項目以外は減少しています。授業で話し合ったり発表したりする機会は増えましたが、内容的には難易度の高い単元に入り、また目標や本時の問いが明確ではなかったために内容を消化しきれなくなっています。数学Bは全体的に評価4は増え、評価3が減少しています。授業中に生徒同士で話し合う機会やペア・ワーク、グループ・ワークに関する項目において、評価4と3が大きく減少しています。

#### ②手立て

数学Ⅱでは引き続きペア・ワークやグループ・ワークを取り入れつつ、その時間の目標や重要な問いについて、確実に提示するようにします。また、教材を工夫し、難しい内容を分かりやすく生徒に伝える工夫もします。数学Bについては、ペア・ワークやグループ・ワーク等、さらに話し合いや発表する機会をより多くしていきます。

### 理科

#### ①分析

〈物理基礎〉1学期と比較すると、全ての項目において「ほぼ当てはまる」が減少し、「かなり当てはまる」が増加しています。特に「授業の進め方」や「生徒主体の授業の工夫」の項目での増加が顕著であり、ペア・ワークやグループ・ワークを多く取り入れ、生徒同士で互いに学ぶ時間を多く確保したためと思われる。しかし、「授業の充実感」の「ほぼ当てはまる」が減少し、「あまり当てはまらない」が増加しています。1学期よりも更に難易度が高くなっており、理解するのに苦労するためです。

〈化学〉1学期と比べると、ほぼすべての項目で「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」が増加しています。「授業の充実感」や「授業の進め方」の項目で増加しており、本時の目標の提示やまとめの問題演習など進め方の工夫を行なっているためです。1年半化学を学び、化学の基本が定着してきたこと、及び現在の学習内容が「無機化学」であり、実験を多く行なっていることも要因です。

#### ②手立て

〈物理基礎〉1学期の内容を繰り返し復習し、その上に知識や理解の積み上げができるよう指導を心がけていきます。基礎を固めることで理解が深まり、難易度が高くなっても諦めずに取り組めるようになります。

〈化学〉引き続き化学実験を多く行なうことにより、学習意欲を高め、知識・理解の定着に努めていきます。また、化学的知識を利用して理由や原因を考えたり、物質の推定ができるような思考・判断能力を高めたりする授業もさらに工夫していきます。

### 保健・体育

#### ①分析

〈体育〉2年の体育では2学期に創作ダンスがあり、仲間と協力してダンスの振付や曲目を決めています。男子生徒はほとんどが創作ダンス初体験のため悪戦苦闘しながら、話し合いを重ねて発表会まで練習をしています。その影響か、グループワークを実施する機会が増えたと感じている生徒が大幅に増えたことに加えて、教材が工夫されており取り組みやすいと感じている生徒の数も増加した結果となりました。また、「説明が丁寧」や「理解度に合った授業展開がされている」と実感する生徒の数も増加した結果から、教員が授業の準備にかけた時間はそのまま、生徒の授業に向かう意欲に結びつくということが伺える結果となりました。

〈保健〉2年の保健では、プリントを用いて生徒同士で調べ学習を行わせ、それについて議論させる授業展開を積極的に行っています。授業の充実感の質問項目の内、理解度を示す質問では9割近くの生徒が理解できているという結果が出ていることから、やはり調べ学習や討論などの能

動的活動は、受け身の授業より理解度が増すことが分かりました。

#### ②手立て

〈体育〉創作ダンスの例にあるように、生徒の同士の活動が多く生徒主体の授業展開を行うことで、“楽しい”や“取り組みやすい”と感じる生徒が多くなることが分かりました。そのため、体育の授業を楽しみと感じてもらうためには、教師主導の授業だけではなく、生徒が主体的に行う授業展開を工夫する事が大切です。

〈保健〉体育同様、能動的な活動が生徒のやる気を引き出す結果につながるので、調べ学習やグループ・ワークを積極的に導入することで、生徒のやる気を上げるだけでなく、理解度の向上にもつなげていきます。

### 家庭

#### ①分析

2学期は食生活分野の学習が中心となり、調理実習を行いました。グループで考える学習をより多く取り入れました。振り返りについては「振り返りシート」を使用することで視覚的にも確認できるようにしました。実習の説明では、動画を取り入れたパワーポイントを使い、調理方法をイメージしやすいよう工夫して説明することに努めました。生徒はグループでよく協力し、積極的に実習に取り組み、充実感をもった生徒も多かったようです。食生活分野は他の分野より家庭学習に繋げやすいため、実生活に取り入れやすい授業展開を意識しました。

#### ②手立て

グループ活動や実習で生徒同士が話し合ったり、教え合ったりしながら学習できる機会をさらに充実させていきます。また、自分の健康や食の安全に対する意識を高められるような学習展開を工夫していきます。

### 芸術

#### ①分析

質問4「授業のはじめに学習目標や学習のねらいを明示している」、質問5「授業のおわりに授業内容の振り返りやまとめをしている」の評価は、あまり変化がありません。授業者は1学期から継続して取り組んでいます。

質問7「ペア・ワーク、グループ・ワーク、話し合い、意見交換、発表、論述等をする機会がある」の評価は、「美術Ⅱ」では授業に慣れて作業中の意見交換が活発になったことから1学期より高くなりました。

質問12「私は授業に対して意欲的に取り組んでいる」の評価は、1学期からほとんどの生徒が高く評価しているため、上記分析による変化は確認できません。

#### ②手立て

「ペア・ワーク、グループ・ワーク、話し合い、意見交換、発表、論述等」を取り入れることで、各教材の「身に付けさせたい力」の定着に効果が上がるよう工夫していきます。

### 英語

#### ①分析

全体的に1学期に比べて評価が上がっています。特にコミュニケーション英語Ⅱにおいて「説明の仕方がていねいで、分かりやすい授業である」や「生徒一人ひとりに目を配った、きめ細かい指導がなされている。」という項目の評価が上がっております。より分かりやすいプリントや単語の反復練習等を取り入れた成果が表れています。また、「私は授業の予習、復習に心がけ、宿題(課題)などを日常的にこなしている。」という項目も上がっております。授業が理解できることで英語への興味・関心が高まり、家庭学習の定着につながってきています。

一方で、「授業のおわりに授業内容の振り返りやまとめをしている。」という項目が低いことから、生徒に毎回の授業で自分たちが何を学んだかをきちんとまとめていないため、毎回の授業内容をよく理解できずにいる生徒がいると考えられます。授業を聞き、生徒がより深い学びをすることができるよう毎回、授業の終わりに振り返りやまとめを行い、自分がこの時間に何を学んだかを理解する時間を確保することが必要です。

#### ②手立て

アクティブラーニング型授業を通して英語の4技能を向上すべく、日々の授業でスピーキングやライティング活動を充実させていきます。また、これまで取り組んできたプレゼンテーションや個人スピーチを導入した授業を継続して展開し、それらの活動を通して生徒が自ら考え表現し発信する力を向上させていきます。授業内容の理解度については、ペア・ワークやグループ・ワークでの確認作業など、さらに工夫を取り入れ改善に取り組んでいきます。英検等外部試験については、大学入試等でも活用されてきているので、それら資格試験の受験を引き続き奨励し、筆記試験対策や2次試験対策等サポート体制のさらなる充実を継続して図っていきます。

### 3学年 生徒による授業評価 各教科の評価分析と手立て：①分析)、②手立て)

#### 国語

##### ①分析)

3年の科目は現代文B(2単位)、現代文研究(3単位)、古典研究(3単位)、国語表現(3単位)の4科目です。どの科目においても2年次よりも難解な教材が増えています。特に現代文Bでは評論文が難しく、1学期よりも2学期の取組みの意欲がやや下がり気味となっています。また課題等への取組みの自己評価もやや下がり気味です。その他の科目についてはほとんどの項目において評価はほとんど変わりません。

##### ②手立て)

現代文はすべての教科・科目の基盤となる科目であるので、毎回「本時の目標」「本時の流れ」「本時のまとめ」を明示し、漢字小テストなどを継続実施して、学習し続ける習慣と学習意欲の維持に努めます。また、課題等を定期的に出し、それをきちんとこなす習慣をつけさせます。

#### 地歴・公民

##### ①分析)

3年生については、クラス単位の科目が現代社会、選択の科目が世界史研究、日本史研究、地理B、倫理、政治経済になります。全体的な傾向としては、1年生や2年生にも見られたような、話し合いや発表、ペア・ワーク、グループ・ワークといったようなアクティブ・ラーニングの視点による取組みに関して、その機会が増えていることを生徒もはっきりと自覚しています。一方で説明に費やす時間などが減っているため、理解度や分かりやすさに関しては低下しています。

##### ②手立て)

今後はアクティブ・ラーニングの視点による手法を拡大していきながら、理解度の向上も図っていくことが重要です。生徒自身の能動的な取組みを促すような手立てを進めていきます。

#### 数学

##### ①分析)

2学期は授業の進度は早くなりましたが、生徒自身もさらに意欲的に取り組んでいるためか、ほとんどの項目にわたって、授業に対する評価が向上しています。特に授業の充実や理解度などの項目はかなり高い評価がなされています。

##### ②手立て)

教科の性質上発表などをする機会は限られていますが、演習などの実践を通して授業に自主的に参加し、相互に学びあう姿勢などを育てる授業を今後も課題にしていきます。

#### 理科

##### ①分析)

〈物理〉物理は2年生の物理基礎が文系理系関係なく必修で、できるだけ文系の生徒も理解できる易しい内容を優先して進度もゆっくりでしたが、3年の物理になって急激に難しくなったという声を当初よく聞いていました。授業の評価を1学期と比較するとあまり変化はありませんが、授業の進め方や生徒主体の授業の工夫が説明の分かりやすさがほんのわずかに「ほぼ当てはまる」から「かなり当てはまる」に移行しています。逆に学習への取組みが「かなり当てはまる」から「ほぼ当てはまる」へ移行してしまった点が気になります。受験がせまり、受験科目ではなくなった生徒も何人かあり、受験科目に集中するあまり、他科目への取組みが弱くなっています。

〈発展化学〉発展化学は理系の生徒は全員必修の科目です。全体として「かなり当てはまる」がやや減少し、「ほぼ当てはまる」に移行、「授業の充実感」の項目が減少しています。2学期は授業内容が物理化学となりさらに難易度が増したことや、2学期になり自分自身の必要な科目の学習に集中する生徒が出てきたためです。

〈生物〉学習目標や学習のねらいの提示については、明らかに数字が低くなっており、担当教員の取組みが不十分で、生徒にも伝わっていません。ペア・グループ、グループ・ワークや発表などの機会があるかという質問に対して、4を選んだ数が大幅に減少をし、3を選んだ数も減少しています。回答総数が減少したことに加え、受験を前に、一方的知識伝達型授業が多くなっています。A・Bの質問との関係性を考える前に、意欲的に取り組む姿勢についての数字が少ないことについては、真摯に取り組むべきです。関心・意欲や主体的な学びが弱いことは、様々な学びが実を結びにくいからです。

##### ②手立て)

〈物理〉進路と直接関係がなくても、理系の素養を広げる意味でも積極的に取組めるよう、実験・実習、グループ学習、ICTの利用を増やし、将来にわたって学び続ける意欲を高められるよう工夫をしていきます

〈発展化学〉実験・実習、グループ学習、ICTの利用を増やし、理系の力を高めるような授業を工夫していきます。

〈生物〉受験のために必要な知識を注入する場面においても、グループ活動やペア活動などのアクティブ・ラーニングの視点による授業や、問題解決型授業を行い、理解や定着を深めて行きます。

#### 保健・体育

##### ①分析)

〈体育〉3年の体育では2学期に伝統的に社交ダンスを行っています。ほぼ全員が未経験のため、最初はステップを正確に刻むのはもちろん、リズムに乗ることすらままならない生徒が多いですが、互いに教え合ったり、踊り合ったりすることで徐々に上達していきます。生徒同士で教え合う機会が増えたり、馴染みのない社交ダンスに新鮮味を感じ「取り組みやすい」と実感している生徒が1学期より増加し、9割近くもの生徒が楽しいと実感していました。

## ②手立て

〈体育〉互いに教え合うことや、社交ダンスのように新鮮味のある教材に取り組みやすさを感じる生徒が多いという結果を踏まえて、教師による“飽きさせない授業づくり”を進めていきます。

## 家庭

### ①分析

1学期に引き続き、科目の目標である実践的な学習と生徒の進路実現を目標として、「子どもの発達と保育」では、施設での体験実習を行いました。実習を行うごとに振り返りと次の目標を設定する学習を繰り返すことで、生徒自身は積極的に課題を解決する姿勢になっていきました。「フードデザイン」では調理実習を設定し、実践活動の中で知識や技術を向上させることに努めました。両科目とも、1学期よりさらに生徒は目的意識をしっかりと持って実習に臨んでいました。また、その成果を進路実現に繋げることができた生徒もおります。

### ②手立て

今後も生徒の主体性をより引き出し、学習したことを日々の生活につなげる方法を具体的に示していきます。また進路決定に生かせるような授業展開の工夫をし、的確なアドバイスができるよう努めていきます。

## 芸術

### ①分析

質問4「授業のはじめに学習目標や学習のねらいを明示している」、質問5「授業のおわりに授業内容の振り返りやまとめをしている」の評価は、あまり変化がありません。授業者は1学期から継続して取り組んでいます。

質問7「ペア・ワーク、グループワーク、話し合い、意見交換、発表、論述等をする機会がある」の評価は、「実用書道」では創作作品が多かったことから1学期より高くなりました。

質問12「私は授業に対して意欲的に取り組んでいる」の評価は、1学期からほとんどの生徒が高く評価しているため、上記分析による変化は確認できません。

### ②手立て

「ペア・ワーク、グループワーク、話し合い、意見交換、発表、論述等」を取り入れることで、各教材の「身に付けさせたい力」の定着に効果が上がるよう工夫していきます。

## 英語

### ①分析

コミュニケーション英語Ⅲでは、思考・判断・表現力の仕上げとして個人スピーチを行いました。生徒たちはパワーポイント、写真等の資料やジェスチャーを活用して生き生きと発表を行い、素晴らしい表現力を見せてくれました。しかし、受験を意識した授業内容（受験問題演習、リスニング対策）の割合が増えていくにつれ、学び合いの活動が減りました。その結果、6・7の「話し合い・意見交換」の数値が少下がりました。英語表現Ⅱの授業においては、リスニング、ライティング、読解問題等に加え、生徒からの要望を受け、語法、文法等の問題演習を行いました。その日の授業内容だけでなく、学期を通しての学習内容と計画をあらかじめ示すことにより、生徒一人ひとりが学習目標や内容を理解して取り組むことができました。そのため、4の「学習目標やねらいの提示」の数値が上がりました。受験が近づいてくると、学び合いにより学びを深めることより、一人で単語を覚えたり、演習問題に取り組んだりすることを好む生徒が増えましたが、基礎力の定着が進んだため、学びあい自体は活発に行われ、質の向上が見られました。

### ②手立て

この3年間で身につけた「自学力」―課題を発見し解決するために必要な「自ら主体的に学び続ける力」―を今後は自分で伸ばしていくことが求められます。「汎用的な能力」を高め、互いに良さを認め合い、他人に敬意を払い、互いに尊重し、相互に理解し合うことを学び、社会でたくましく生き抜いていくよう指導します。